

夢のつばさプロジェクト 2011 年 12 月冬キャンプ 実施報告書

【日程】 2011 年 12 月 23 日(金)～26 日(月)

【場所】 奥多摩園(ブリヂストン保養所)

見学地等: 東京タワー、恩賜上野動物園、国立科学博物館、青梅市総合体育館

【活動概要】

12 月 23 日

学生 6 名、医療スタッフ 1 名、社会人ボランティア 1 名、事務スタッフ 1 名による送迎班が 7:00 に東京駅を出発し、仙台でチャーターした宮城交通バスによって、仙台、名取、いわき駅で子どもたちをピックアップし、18:30 に奥多摩園に到着。

学生と社会人ボランティアは 13 時に奥多摩園に集合し、活動準備を開始しました。

18:30 にクリスマスツリーの点灯式を行い、その後、夕食、入浴後、就寝。スタッフは会議を開催。

バス移動に 7～8 時間かかったことで、子どもたちには多少疲れが見られましたが、バスの中での遊びなどを通して、子どもと学生との交流が深まりました。

到着早々、発熱している子どもが有り、青梅市立総合病院を受診しました。

12 月 24 日

朝食後、子どもと学生は事務スタッフは宮城バスで東京見物に出発。東京タワー、上野動物園、国立科学博物館見学(グループ自由行動)。

クリスマスパーティー準備にあたる学生は奥多摩園で活動。発熱した子は近医を受診してインフルエンザ A 型と診断されたため、一部屋を確保し、学生が 1 名付き添うこととしました。

18:00 に奥多摩園に戻り、保養所特製のローストビーフ付き夕食を頂き、19:30 から音楽会を開きました(尺八とチェロ鑑賞)。クリスマスパーティーでは、学生が企画したミニツリー、お菓子の家作りをしたり、サンタさんからプレゼントをもらって、クリスマスケーキでお祝いし、子どもも学生も忘れられない時間となりました。サンタさんは発熱した子どもも訪問。今回は胃腸症状がなかったのにケーキも味見することができました。

21:30 子どもたちは入浴後、就寝。スタッフは会議を開催。

12 月 25 日

6:30 に起床して、朝の勉強会。学生も一緒に勉強しました。朝食後、宮城交通バスで青梅市総合体育館に移動して、久保田武蔵氏(格闘家・体操のお兄さん)と体操、クリスマスカップ(開会式後、チームに分かれて、だるまさんが転んだ、尻尾とり、追いかけて玉入れ、大縄跳び、全員リレー、綱引き紙、風船割りなど)で楽しみました。13:30 に昼食、閉会式、得点発表後、15:30 にバスで奥多摩園に戻りました。やや疲れた子どももありましたが、とても楽しかった様子でした。

その後、ボードゲーム(工場長ゲーム:子どもと学生ボランティアが組を作って対戦)を実施、小学生グループも中学生グループも夢中になって楽しみました。ブリヂストン(株)での仕事についても解説頂きました。夕食後はハンドベルを合奏したり、「翼をください」を輪になって合唱したりして過ごしました。子ども同士も仲良くなり、学生ともすっかり打ち解けておしゃべりし合う姿が見られました。

21:00、子どもたちは入浴後、就寝。スタッフは会議を開催。

12 月 26 日

朝食後、思い出の写真を入れたバッジ作りをしました。閉会式では担当学生らが徹夜で作成した飛び出すカードをプレゼントし、キャンプの映像DVDを見て、再会を約束しました。中学生の一人が素敵なお別れの挨拶してくれました。体調を崩した子があったので、仙台へは宮城交通バスで直通で向かうことにし、10:00 に学生 5 名、医療スタッフ 1 名、社会人ボランティア 1 名、事務スタッフ 1 名が付き添って出発しました。福島から参加の子どもにはスタッフ 1 名が付き添って列車で送りました。

他の学生は片付け後、解散しました。

【まとめ】

7～8時間のバスの中でボランティア学生と仲良くなり、また夏のプレキャンプに参加した子どももあったためか、不安感なく、最初から期待に胸ふくらませて、うれしそうにバスから降りてくる顔がとても印象的なスタートとなりました。ブリヂストン保養所「奥多摩園」の素晴らしい環境でキャンプ活動を実施できることは、こうした活動において、基地となる場を持てることのありがたさを身にしみて感じます。また前回、植樹祭で植えたアスナロに、クリスマスの飾りをして頂き、素晴らしい点灯式までも用意されて、一同、大感激しました。今回も、夏のプレキャンプ同様、奥多摩園の皆様の心温まるもてなしを頂き、子どもたちも学生ボランティアも心から安心して過ごすことができました。

前回、夏のプレキャンプで、荷物を持っての新幹線の送り迎え、乗り継ぎの電車移動等、いくつか課題がありましたので、今回は日程を通して、バスでの移動を考えました。東北支援ということから、宮城交通バスを貸し切り、仙台から子どもたちを乗せて東京へ、また帰りもバスで仙台へと送迎を計画しました。バス移動については時間的にはっきり確定しない不安や、駐車場の確保等、いくつか課題を感じましたが、大きな困難もなく、バスを貸し切って移動に使えるということは、かなり大きなメリットがあったと思います。

今回は東京見物を企画しました。子どもたちに大変好評でした。また同時に、年齢の小さい子は、かなり疲れたのではないかと感じます。計画を立てる際、くれぐれも欲張らないことを念頭に於いて臨みましたが、さらにゆったりした企画にする必要があるかもしれません。これは25日の体操・運動会にも共通のことと考えます。

クリスマスパーティーは、本当に楽しかったようで、大成功であったと考えています。初めての経験だと喜ぶ子どもたちの笑顔を見て、胸が熱くなりました。学生たちが盛り上げようと一生懸命ではありましたが、少々興奮状態という様子もあり、今後、子どもたちに合わせた方策を考えることも必要だろうと思っています。

この先、年を追うごとに、地道な学びを取り入れて、落ち着いた活動にしていかなければならないと考えており、そうした意味ではボードゲームをして頂いたことは将来のキャリアを考えることにもつながり、面白い取り組みであったと考えます。今後、子ども達の将来設計に活かせるような、様々な取り組みを考えていきたいと思っています。

参加学生たちと行った振り返りの会で、東京見物や体育館でのクリスマスカップの楽しさと共に、何も無い時間で子どもたちとの落ち着いたやり取りが、とても印象深かったと言う意見が大勢の同意を得ていました。今後も長く参加して続けていきたいという声も多く、2012年5月の遠野での活動に向けて、準備を開始することになりました。

今回は、前述のように、仙台から東京へ着いた途端、1名が熱を出し、インフルエンザと診断されました。学生が献身的に付き添い、看護師も手をつくし、子どもからも保護者からも大変感謝されましたが、他の児童への感染の恐れなどもありますから、やはり出発時の体調確認はもっと厳しくしないと、その後の活動の制約となります。遠く離れているので、途中で子どもを帰したり、迎えに来てもらったりすることは困難ですから、この点はよく周知しなければなりません。出発前の準備について、前もって色々連絡をしましたが、子どもはぜひとも行きたい様子で、少々熱があっても、熱さましを飲んだりして来てしまうようです。今回は、医療班が大活躍でした。

疲れもあってか、気分が悪くなったり熱を出したりした子どもが2名ありましたので、インフルエンザに感染したのではないかと心配しましたが、徐々におさまり、大きな問題なく過ごすことができました。参加させた以上は、ゆったりと構えて、余り子どもを心配させないことが必要であると感じました。子ども一人ひとりについて、学生スタッフが日常の様子を記入、医療スタッフが、体調について書き込む、保護者への報告書も充実していて、保護者の安心に役立っていると感じました。

子どもたちは、病気の子も含めて、「大変楽しかった、また行きたい」と保護者の方たちにお話している様子で、家の方々からもとても感謝されました。子どもたちから手紙も届いて、嬉しさは一入です。私たちの活動が、子どもとその祖父母や親せきの方など、現在の保護者の方々の心をほぐし、疲れをひとときでも癒す活動になることは大きな喜びです。じっくりと活動を深め、子どもたちが将来に向かって、各々の夢を実現する手伝いをしていきたいと考えています。また学生たちの中にも、この活動に長く関わりたいと言う声が挙がっているため、この活動の存続と着実な発展を見据えた運営が必要と考えています。

【キャンプの写真】

受け入れ準備



クリスマスツリー:アスナロを飾るライトを点灯



夕食:なんとローストビーフも登場!みな大喜び



東京見物:バスで胸躍らせ東京タワーへ、上野へ



快晴パノラマビューでした



やはり人気

音楽会: 尺八に興味津々



サンタクロース登場



ボードゲーム



格闘家(左端:体操のお兄さん)も
チャンピオンベルトを持って登場



【学生リーダーの感想：2011年冬キャンプを終えて】

前回は行った夏のプレキャンプから4ヶ月、「夢のつばさプロジェクト」は、2011年12月23日～26日に冬のクリスマスキャンプを迎えました。プレキャンプでの経験を活かし、子どもたちの心のケアについて十分に留意し準備を進めました。

地震や津波によって親を失った子どもたちを招いているため、普通のキャンプとは違った視点が求められます。私達は心理カウンセラーの方々を招き、子どもたちの現在の心の状態について学んだり、震災のつらさを思い出してしまった場合の対応などをシミュレーションしたりしました。今回も50人以上の学生ボランティアが参加しましたが、心に傷を負った子どもたちと触れ合うことの難しさと責任の重さを胸に刻んで、皆、真剣に取り組みました。

私達の活動の大きな励みとなったのは、前回の夏キャンプに参加した子どもたち全員が、いち早く参加を申し込んで来てくれたことです。彼らに楽しんでもらおうと、今回は冬らしく、また東京らしいプログラムを用意しました。当日を迎えてみると、学生も子どもたちに負けず劣らず、一緒に楽しんでいた様に思います。4日間という短い間でしたが、クリスマス会や音楽会をはじめ、近くの体育館を借りて運動会を行ったり、東京観光では上野動物園や東京タワーを観光したりしました。子どもたちはプレゼントを持って現れたサンタさんに大興奮し、また上野動物園では、初めて見るパンダに目を輝かせていました。

今回のキャンプも、様々な企業や団体にご協力いただきました。クリスマスカップ(運動会)では、総合格闘技王者の久保田武蔵選手(体操のお兄さん)が来てくださって、体育館中を「飛び回ったり、這い回ったり」しました。子どもたちが楽しそうにはしゃぐ中、大学生は日ごろの運動不足がたたって、子どもたちに笑われていたのが印象的です。音楽会では、尺八演奏家の安島瑤山さん、ピアニストの浅野衣美さんがご参加くださいました。子どもも学生も、おなじみの歌や初めて聞く本格的な曲を演奏する尺八の音色に聞き入りました。子どもたちは尺八クイズにも積極的に参加していました。また、3日目にはブリヂストン社の楽しく学べるボードゲームを行い、部屋に戻ってからも、子どもたちはお土産にもらった簡易版で嬉しそうに遊んでいました。

最終日には、学生から子どもたちにメッセージカードのプレゼントがありました。全員から「また来るね！」との言葉をもらい、学生も感極まる場面でした。東北への帰りのバスの中では、「まだ帰りたくない、東京にいたい」という声が何度も上がり、学生も別れるのが寂しくてたまりませんでした。

夏に奥多摩園の庭に植えたあすなろの木は、今回とても大きくなっていました。時の流れを実感するとともに、この木の成長と共に子どもたちの成長も必ず見届けたいと感じています。また新たに発見した課題もありますが、自分自身も成長しながら、子どもたちが夢に向かって羽ばたいていくお手伝いをしていきたいと思えます。

学生ボランティア代表 竹内 早紀(お茶の水女子大学)